

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員の目に付く場所に掲示している。	地域に密着した生活を送ることを理念の中に取り入れて、ユニット独自の理念を作成するほか、目標もリーダーを中心に作成されていました。日々目に付くよう、各ユニット・トイレ・事務所・休憩室に掲示しているとともに、3ヶ月に1度は検討の機会を設け、理念の実践に向けた話し合いが行われています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の新年会、夏祭り地域親睦会、排水溝掃除など参加させて貰い交流を図っている。	地域のゴミステーションの清掃活動をご利用者と一緒に行っているほか、ホームのクリスマス会には地元の小学校の生徒が来てくれました。5月に実施したホームのありがとう会には小学校の生徒と地域住民が参加していただくなど地域との交流に努めています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅介護の集い、認知症サポーターの講義を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度行い、状況報告やご意見を頂いている。	2ヶ月に1回市の担当者・包括支援センター職員・地区会長・民生委員・ご家族代表に出席していただき、良い点のみならず、課題など事業所の状況をありのままに全て伝え、そこから出された意見を職員会議で話し合い、サービスの質の向上に活かす取組みがされています。また、会議終了後はご利用者と一緒にご飯もしていただき、ホームの様子を確認してもらっています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き指導を常に頂いている。 認定審査会に出席している。	情報提供の他、運営推進会議の議事録を提出し、事業所の状況を把握してもらうことに努めています。また、相互に行き来し、相談や協力ができる関係が構築されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等に参加し全体会議等で報告し全員で共有することになっている。 玄関はいつも開いている	職員会議でのケース検討や新入職員研修時に徹底がなされ、身体拘束を行わないケアが基本とされています。やむを得ず行う場合はご家族の同意と状況報告がされています。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加しミーティングでの報告を行い、防止に努めている。	身体拘束同様に新入職員研修時に徹底しているほか、職員が虐待防止に関する研修に参加した際は、研修内容を職員同士で検討することによって虐待防止に関する理解を深めています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見の研修に参加したり学ぶ機会を作っている。 相談には随時応じている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時において重要事項書類を説明させて頂きその後署名を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会時、座談会を設け意見を聴いている。 面会時の家族との会話を大切にしている。	5月と9月の年2回のご家族会にてご家族からの意見・要望も確認し、サービスに活かせるように努めています。また、ご家族には面会時のほかクリスマス会や敬老会、花火大会にも参加してもらい、状況を確認してもらっています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを大切にしている。 年2回の個別面談を行い傾聴するようになっている。	夜勤の負担が減るように正規職員を増員したり、研修参加がスムーズにできるようシフト調整なども行っています。また、毎月の職員会議や年に2回の職員との個別面談において意見や要望を確認し、対応するように努めています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に勤務の考課と自己評価を実践し職員の勤務状況の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の推奨(随時)。 内部研修をしている(年2回実施)。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内4GH交換研修。 事業所内での研修。 本人及び施設のスキルアップを図っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日の生活の中で利用者様とのコミュニケーションを大切にしながら安心安全を保持出来るよう支援する。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方と面談を行い相談の機会を作っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方の現状を受け止めその人らしく生活出来るよう家庭での習慣などを継続出来る様に対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	沢庵、梅干し作りを行い職員が学び感謝出来るような場を作っている。 料理法等教えて頂いている。		
19	(7-2)	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会、花火大会への家族の方を招待し交流の場を作っている。 面会時、夜間の様子や日中の様子等安心して頂けるようお話をしている。	毎月の請求書と一緒にお手紙をお送りしたり、2ヶ月に1回広報を作成し、ご家族に事業所の状況をご理解していただけるよう努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人、親戚の方にして頂けるような場所作りを行い年賀状やハガキ等出して頂くようお願いしている。	センター方式を採用し生活暦をより把握するようしており、ご利用者の要望に応じて行きつけの美容室や八百屋さんへの外出、法事・葬式への外出支援も行い、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合えるような席作りをし作業やレクレーションを通じて交流が持てるような場の設定をしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前利用していた家族が来られ、野菜を持って来て下さったり、ボランティアをして手伝って下さっている。 必要に応じて相談や支援出来るよう努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族と話し合い、本人本位を検討している。	ご家族と話し合い本人本位の検討をし、面談によるご利用者やご家族からの聞き取り情報は介護要約として職員間で共有するとともに、日常のケアの中で得た情報はケース記録に記入して職員間で共有することで思いや意向の把握がされています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの道具を居室に置いて貰っている。新聞雑誌等、個人的に読まれている。	これまでの生活の様子を把握するため、ご家族にも協力してもらいセンター方式の書類を記入してもらっています。居室担当の職員ごとに情報を記入し、職員間で共有できるようにしています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、心身状態等、個人記録を毎日記入している。 画一的にならないよう1人ひとりの生活のリズムを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回全体会議を行い利用者様のモニタリングをし意見交換し、問題があればその都度改善出来るよう話し合っている。	毎月行われている全体ミーティングにおいて各ご利用者のケア等について話し合いをしており、状況や意見を全職員が記入したアセスメント用紙をもとに介護計画が作成されています。半年に1回の期間に応じた介護計画の見直しを行うほか、全職員が参加する全体ミーティングと毎月のモニタリングにおいてご利用者の状態をチェックし、変化が生じた場合には随時見直しが行われています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を元に個人ファイルに個人情報をまとめている。アセスメントを元に介護計画を作り月1回モニタリングをしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	独居の方について住所を事業所にお預かりし郵便物等お預かりしている。 ご本人や家族の要望に応じ地域資源を活かして行けるよう取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の図書館利用、地域いきいきクラブにたまに参加する。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族にお願いしている、その際医療連絡表、バイタル記録を持参して頂いている。	ご利用者・ご家族が希望する主治医での受診が行われています。基本として受診の同行はご家族となっているため、書面や電話にてご利用者の情報伝達が行われています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診の際は医療連絡表、バイタル記録をご家族に持参して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も状態様子を把握するためにもお見舞いに行かせて頂き、ご家族、病院関係者と話しをさせて頂いている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の方と終末期についての話をしている。 ターミナルケアについて全体ミーティング等で勉強会を行った。	現在のホームの環境を考え、医療的なケアが必要なければ最後まで支援していきたいと考えており、ご利用開始時にご家族に説明し同意を得ているとともに、職員間でも研修を実施し、その方針は共有されています。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当マニュアルの設置、通報訓練を行っている。	年1回救急法の講習が行われ全職員が受講されているほか、事業所で起こったヒヤリ・ハットの職員への徹底もされており、事故発生時にも適切な対応ができるように努めています。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々に参加して頂き災害、消防訓練を年2回行っている。	年2回の消防訓練には地域の方にもご参加いただいております。夜間を想定した訓練のほか前回の課題であった地震を想定した訓練も行われています。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の生活歴をセンター方式を利用しお聞きし1人ひとりを知る努力をし、その方にあった対応を心掛けている。	職員は入社時に個人情報に関する同意を行い、クレームが発生した場合には職員を召集し、徹底が図られています。また、声掛けなど羞恥心に対する配慮も行われています。広報に掲載するご利用者の写真の同意も得られています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が自宅へ連絡したいと要望があった時は出来る限り電話連絡している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜間眠れない人が歩くのを見守ったりしている。 仏壇のお供え物を一緒に買いに行く。 散歩等も一緒にさせて頂く。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームに理容師が来て下さり散髪する方やご家族の方で散髪されている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が楽しんで食事が出来るよう献立に季節の野菜や果物を取り入れている。 野菜や皮むき盛り付けなど一緒にして貰っている。	ご利用者の状態に応じて、皮むき・盛り付けなどの準備、片付けに参加してもらっています。また、季節に応じてたくあん漬けやおはぎを作ったり、外食にも行くなど食事が楽しみなものになるよう努めています。ホームの畑で育てたトマト、なす、かぼちゃの収穫もご利用者と一緒に行っています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全利用者様の健康状態の把握にあたり食事量、水分量の記録を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声かけや介助により口腔ケアを行い、夜間は介助などにより義歯を消毒している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	意思表示の無い方に限り定期的に促している。 その方の表情、動きで訴えのある時に支援させて貰う。	排泄チェックを行ない、時間による画一的な誘導ではなく、しぐさや動きをもとに排泄パターンを把握し、誘導がされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に気を配っている(繊維質の多い物を使う。 牛乳を好みに応じ飲んで頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望があれば出来るだけ優先させている。	入浴時間はご利用者の希望が尊重されています。入浴を嫌がられる場合は、無理強いをすることなく、時間を置いてタイミングを見計らう、さりげない声掛けを行うなど工夫がされています。月岡温泉や出湯温泉のお風呂にもご利用者と一緒に出かけています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内温度の管理。 休まれるまで布団を温める(湯タンポ)。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用等、説明の用紙に目を通し把握している。 症状の変化を常に意識している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞を読む時間や体操、レクリエーションの場の提供に努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の希望も取り入れ外出の機会を設けている。 外出については同行ボランティア様に参加して貰っている。	時期に応じた花お見やぶどう狩り、あやめ見学などのドライブ、日常的な近隣への買い物や散歩などの外出支援が行われています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安心のためお金をご自分で持たれているが管理は家族にして貰っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の子供達、親族よりしばしば手紙、葉書が届いている。 電話はいつでも自由にして貰っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、置物(お雛様)等を飾りを楽しんで貰っている。季節感のある行事を計画している。	白と明るい木目を基調とした清潔感がある共有スペースに季節を感じる花や装飾が程よくなされ、居心地のよい空間が作られています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	よく話をされる方と隣にし座られ話をされる。食堂等の椅子の配置について気配りしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団など本人の物を使用して頂き安心出来るようにしている。 愛用の鏡台、タンスを持ち込まれる方もいる。	ご利用者の愛用していたものの持込みや写真の掲示など、一人ひとり個性がある部屋となっています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方のやりたい事を優先に場の設定を行っている。		